

市場のここに注目!

2018年はここに注目! - 2018年の10サプライズ

大和住銀投信投資顧問 経済調査部
部長 門司 総一郎

恒例の10サプライズです。10サプライズの元祖である元モルガンスタンレーのエコノミスト、パイロン・ウィーン氏は「サプライズ」を「一般には1/3の生起確率しかないと思われるが自分にとっては50%以上である事象」と定義していますが、私は「比較的可能性が高いリスクシナリオ」位の気持ちで作っています。

2018年に予想される10のサプライズ

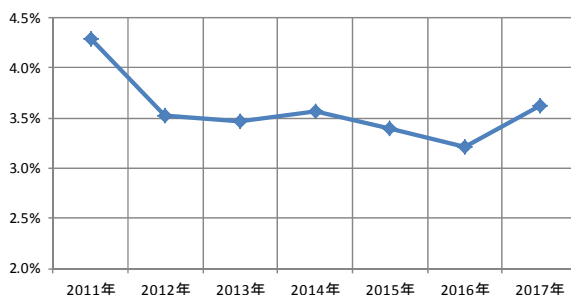
サプライズ	市場への影響		
	株式	債券	円
1 第4次産業革命で成長が加速!!、18年の世界の成長率は4%台に	○	×	-
2 18年も二桁増益!収益力を評価して、日経平均は30000円台を回復!!	○	×	-
3 忘れた頃にやってくる? 金融株がIT株をアウトパフォーム	-	-	-
4 ロシア疑惑深まる!? トランプ大統領の求心力低下で、米税制改革は先送り	×	○	○
5 2期目の習近平体制は前途多難、景気回復策縮小で中国経済は急減速	×	○	○
6 利下げ新興国の株式、通貨が好調	○	×	×
7 「日銀よ、おまえもか!」? CPI上昇率1%到達で黒田総裁は出口戦略を決断	-	×	○
8 ハブ崩壊、ビットコイン価格が急落	×	○	○
9 快挙!! サッカーW杯で日本代表が初のベスト8進出、日本代表関連株が上昇	キリンHD、テレビ朝日、クレディセゾン		
10 時代は千葉、「チハニアン」認定で千葉関連株が買われる	千葉銀、JR東日本、応用地質		

出所: 大和住銀投信投資顧問、○は日本株式/日本債券/円(対ドル)の上昇要因、×は下落要因、-は中立または影響なしを示す

その1: 第4次産業革命で成長が加速!!、18年の世界の成長率は4%台に

IoT(モノのインターネット)、AI(人工知能)などの技術革新により、続々と新商品や新サービスが産み出され、社会を大きく変えようとしています。この流れは企業の投資意欲や、個人の消費意欲を刺激することにより、既に経済にプラスの効果をもたらしていますが、18年はこれが加速、世界の成長率は2011年以來の4%台を回復するとのサプライズです。

世界の経済成長率(前年比)



出所: IMFより大和住銀投信投資顧問作成、17年はIFM予想

日経平均(月次、円)



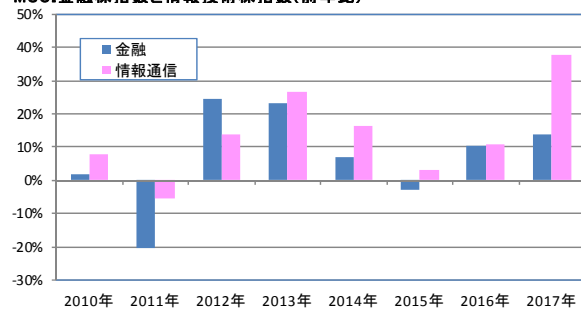
出所: プルームバークより大和住銀投信投資顧問作成

本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見、予測等は、資料作成時点におけるレポート作成者の判断に基づくもので、今後予告なしに変更されることがあり、また当社の他の従業員の見解と異なることがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

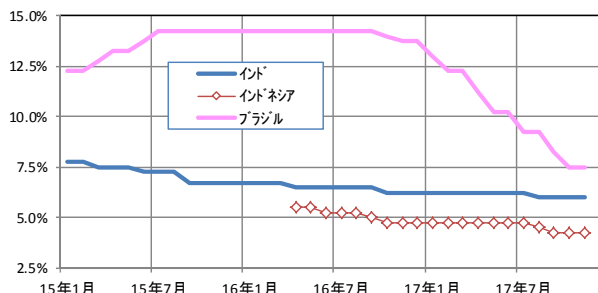
その2：18年も二桁増益！収益力が評価され 日経平均は30000円台を回復!!

好調な世界経済や個々の企業の努力による収益性改善などから、18年も二桁増益を達成。日経平均は28年ぶりに30000円を回復するとのサプライズです。正直足元の水準から30000円までは距離があり、メインシナリオでは難しいと思いますが、サプライズとしてならありでしょう。

MSCI金融株指数と情報技術株指数(前年比)



新興国の政策金利(月次)



その3：忘れた頃にやってくる？ 金融株が情報技術(IT)株をアウトパフォーム

第4次産業革命を追い風にIT株の好調が続く一方、低金利などの逆風により金融株の不振が続いています。5年連続でMSCI金融株指数の騰落率はIT通信株指数のそれを下回りました。しかし最近では、IT株の割高感への警戒が高まる一方、金利の先高観などから金融株に注目する向きも増えている模様です。18年は6年ぶりに金融株がIT株をアウトパフォームするとのサプライズです。

その4：ロシア疑惑深まる!? ドナルド・トランプ大統領の求心力低下で、米税制改革は先送り

ロバート・モラー特別検察官はマイケル・フリン前安全保障担当大統領補佐官を刑事訴追、フリン氏は容疑を認めて捜査に協力することになりました。これにより今後トランプ氏に不利な事実が明るみに出る可能性も出てきたと考えていますが、その場合トランプ氏の求心力が低下して、看板の税制改革が先送りされる恐れもあります。捜査の行方に注目です。

その5：2期目の習近平体制は前途多難、景気テコ入れ策縮小で中国経済は減速

共産党大会を終え、2期目に移行した習近平体制ですが、前途洋々とはいかないようです。成長重視から構造改革などへ政策の軸足を移す見込みですが、その結果景気には下押し圧力がかかると思われる。中国株が11月半ばから下落に転じていることもあり、18年の中国経済は世界の経済・金融市場にとってリスク要因。要注意と考えています。

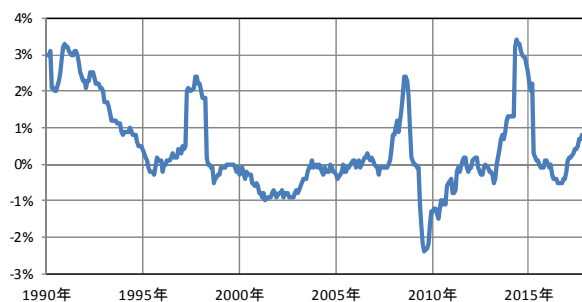
その6：利下げ新興国の株式、通貨が好調

一方同じ新興国でも期待できそうなのが、ブラジル、インド、インドネシアなど、金融緩和を進める国々です。ブラジルでは2014年4-6月以来3年ぶりに成長率(前年比)がプラスになるなど、緩和の効果が始まっています。18年は利下げ新興国の株式や通貨に期待しています。

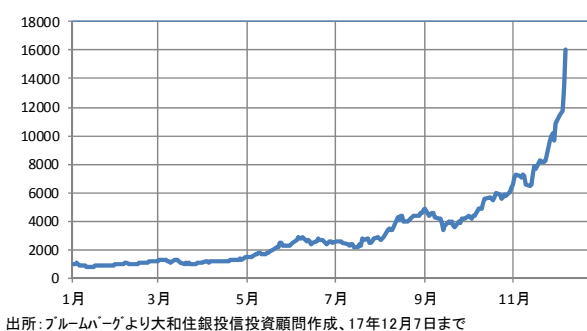
その7:「日銀よ、おまえもか」!? CPI上昇率1%超えで黒田総裁は出口戦略を決断。

直近の日本の消費者物価指数(除く生鮮食品)の前年比上昇率は0.8%。消費増税の影響が残っていた2015年3月以来の高水準です。景気は好調、賃金の上昇も続いており、インフレ率が1%を超えて上昇してもおかしくないでしょう。その場合、目標の2%には届かなくとも、黒田東彦日銀総裁は金融緩和の縮小に踏み切り、日銀も出口戦略の戦列に参加するとのサプライズです。

日本の消費者物価指数(前年比、除く生鮮食品)



ビットコイン価格(2017年、日次、ドル)



その8: バブル崩壊、ビットコイン価格が急落

仮想通貨の先駆けビットコインの価格は、分割などを材料に年初の1000ドルから12月7日の高値16000ドルまで上昇しました。しかし、この上昇は行き過ぎであり、今後急落するとのサプライズです。今なら下落しても景気や金融市場への影響は限定的と思いますが、更に上昇を続けた後での下落となった場合は、影響は無視できないものになる恐れがあります。

その9: 快挙!! サッカーW杯で日本代表が初のベスト8進出、日本代表関連株が上昇

18年のロシアW杯ではハリルホジッチ監督の下、世代交代を進めた日本代表に期待がかかります。これまで1大会おきに決勝トーナメントに進出していますが、今回は進出の番なもの好材料。日本代表のスポンサーを務める麒麟やファミリーマート、TV中継を引き受けるテレビ朝日に注目です。

その10: 時代は千葉、「チバニアン」命名で千葉関連株が買われる

約77万年前から12.6万年前の地質学上の期間が「千葉時代」を意味する「チバニアン」と命名される見通しです。日本の地名が付く時代は初めてのことです。千葉への観光客増の期待から千葉銀行やJR東日本、また地質学へ関心が高まった場合に恩恵を受ける企業として、応用地質に注目しています。

以上が2018年に予想される「10サプライズ」ですが、最後に昨年12月24日付「市場のここに注目！」の「2017年に予想された10サプライズ」の結果について検証しておきます。

2017年に予想された10のサプライズ

	サプライズ	評価	寸評
1	トランプ政権は迷走、米政治は機能不全に陥るも米国株は上昇	○	トランプ迷走も米国株は上昇
2	雇用逼迫と財政出動で世界的に成長とインフレが加速、株高・債券安に	-	景気加速もインフレは安定
3	米抜きでもTPP、安倍首相のリーダーシップが評価され、日経平均は23000円	○	TPP11は合意目前、日本株は上昇
4	やっぱり一人はさびしい、英国はEU残留を決定してポンドが上昇	×	離脱変わらず、ユーロポンドはほぼ横ばい
5	景気から改革ヘシト、中国は2017年の成長率目標を6%に引下げ	×	成長率目標は17年も6.5%
6	出口戦略か？ 日銀は長期金利の目標水準を引上げ	×	長期金利目標は維持
7	打倒「イスラム国」なる。地政学リスク低下でトルコリラが反発	-	「イスラム国」打倒もトルコリラは下落
8	日米の薬価引き下げ圧力から薬品株が2年連続の大幅下落	×	ハイオ株急騰、薬品株指数は9.1%高
9	祝！ノーベル賞、村上春樹氏の受賞で関連株が上昇	○	元日本人のイシグロ氏が受賞、関連株は上昇
10	レコラントも加わり、テーマパークブーム。テーマパーク関連株が買われる	-	オリエンタルランド上昇、マリン・エンタ下落

出所：大和住銀投信投資顧問、○は「サプライズ発生」、×は「不発」、-は「どちらとも言えない」を示す、12月7日時点

自己評価では3勝4敗1引き分けで4年連続の負け越しと残念な結果になりました。環太平洋パートナーシップ協定(TPP11)は無理と思っていたのですが、よくここまでこぎつけたと思います。欧州連合(EU)との経済連携協定(EPA)交渉の妥結と合わせて、本当にサプライズでした。村上春樹氏は今年もノーベル賞を逃しましたが、代わって受賞したのが元日本人のカズオ・イシグロ氏なので、○にしました。メインシナリオでは日経平均30000円は2019年に達成と考えています。

以上